



就業構造基本調査からみる中濃圏域

H24.10.1実施

就業構造基本調査は、全国から抽出した世帯の15歳以上の世帯員を対象に実施しており、結果の数値は、実際の対象となった世帯の調査に基づき、調査の範囲となる人口全体について算出しています。

統計表の数値は、総数に分類不能・不詳等の数値を含むため、また、表章単位未満の位で四捨五入しているため、総数と内訳の合計が必ずしも一致しません。

統計表が美濃加茂市の単位で公表されていないので、中濃圏域として集計されたデータを使用しています。

中濃圏域・・・関市、美濃市、美濃加茂市、可児市、郡上市
坂祝町、富加町、川辺町、七宗町、八百津町、白川町、東白川村、御嵩町

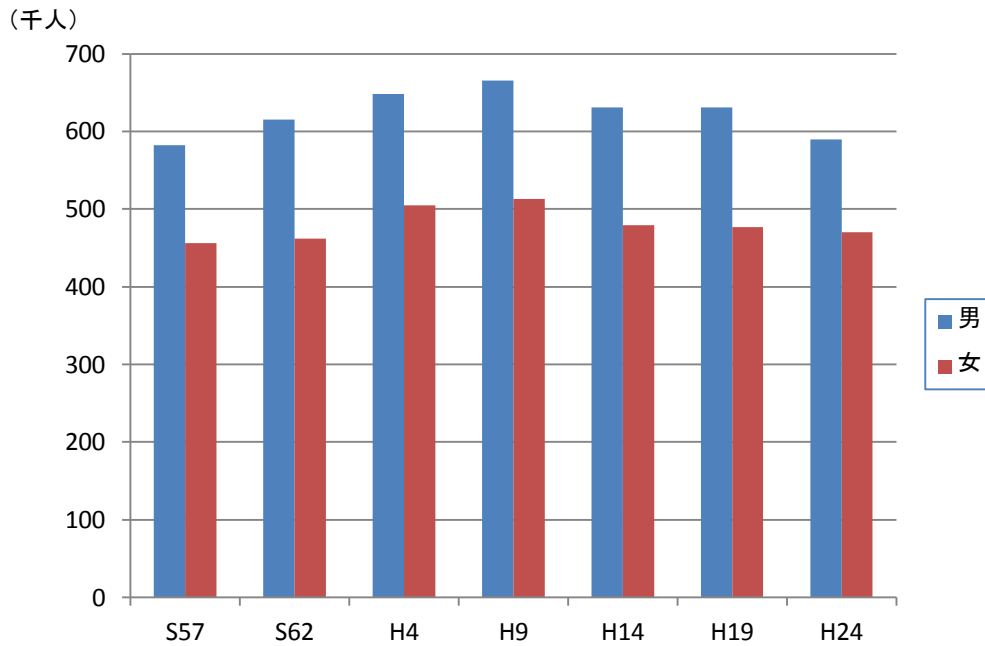
有業者の比較



就業状態	15歳以上人口 (千人)	有業者 (千人)	無業者 (千人)	有業率 (%)
中濃圏域総数	327.3	195.0	132.3	59.6
男	158.9	109.2	49.7	68.7
女	168.4	85.8	82.6	51.0
岐 阜 県	1,775.8	1,060.6	715.2	59.7
男	851.0	590.3	260.7	69.4
女	924.8	470.3	454.5	50.9
全 国	110,815.5	64,420.7	46,394.4	58.1
男	53,413.2	36,744.5	16,668.7	68.8
女	57,401.9	27,676.2	29,725.7	48.2

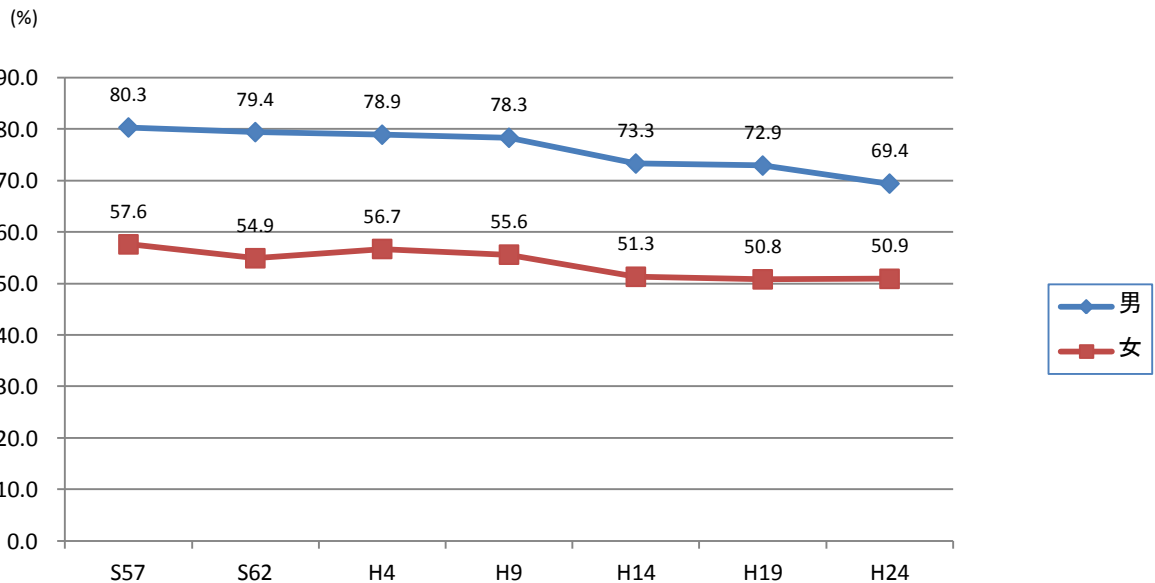
中濃圏域の有業率を見ると、女性の有業者率が、全国より高いことがわかります。

岐阜県の男女別有業者数の推移



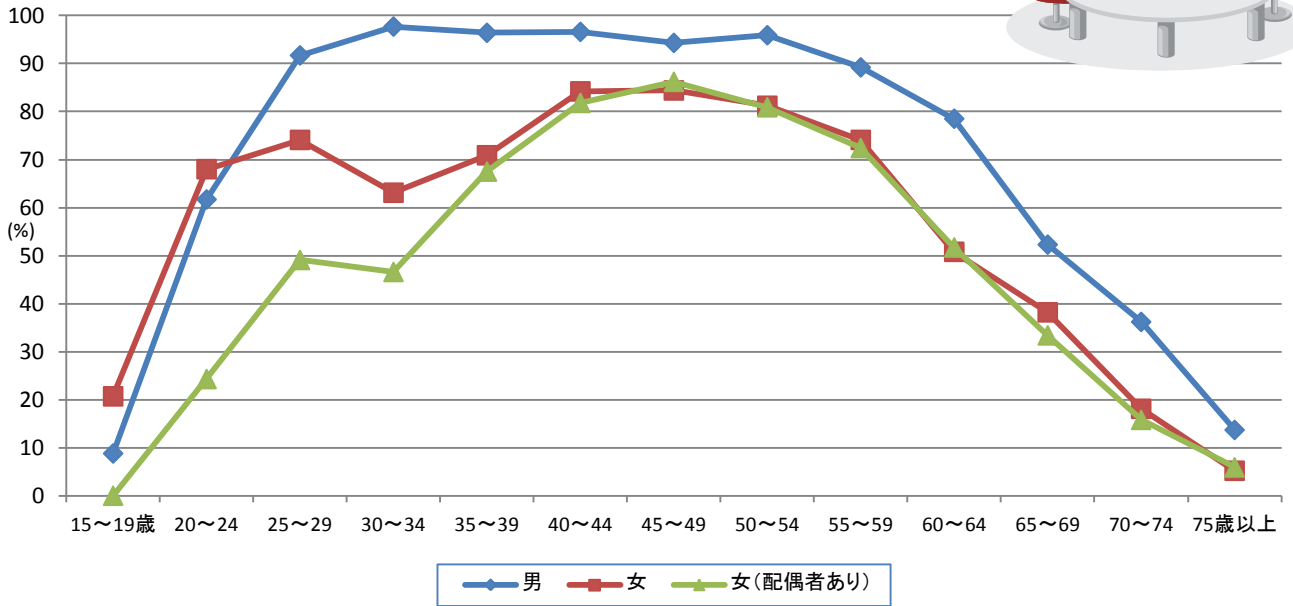
岐阜県の男女別有業者数の推移をみていくと、男女ともにH9年にピークを迎え徐々に減少していることがわかります。

岐阜県の男女別有業率の推移



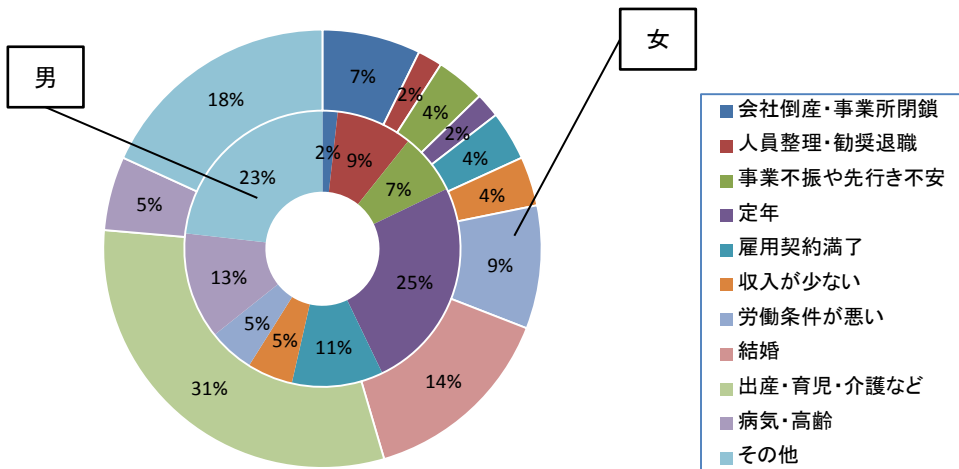
有業率の推移で見ても、男女ともに年々減少傾向にあることがわかります。

中濃圏域の男女、年齢別有業率



有業率について、男女別、年齢別に見ると、男性は25歳から60歳までの各年齢階級でほぼ90%の台形を示しています。
 女性は30歳から34歳を底とするM字型カーブを示しています。
 これは結婚や出産を機に、いったん仕事をやめ、数年後にまた復帰するという就労パターンを示しています。
 また、女性の有業率を配偶関係別に比較すると、曲線の形状が、若い年齢層で大きく異なっていることがわかります。このことから、M字型カーブは、特に若い年代の有配偶者の就業率の低さの影響が大きくなっていることがわかります。

中濃圏域の男女別離職理由の割合



離職理由を、男女別にみると男性は「定年」が最も多く、次いで「病気・高齢」となっていますが、外側の女性は「出産・育児・介護など」、「結婚」が多くを占めています。
 女性は男性に比べ、家族関係、生活環境の変化による離職が多いことがわかります。

中濃圏域の女性の年齢層別就業希望状況

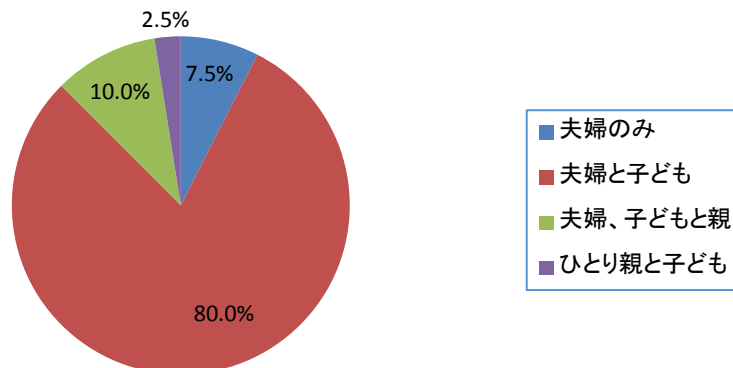
年齢層	総数 (人)	無業者					
		総 数		(就業状態)	(就業希望)		
			無業者比 率(%)	うち家事をし ている者(人)	就業希望者 (人)	就業希望者 比率(%)	求職者 比率(%)
15～24歳	17,800	10,100	56.9	1,300	2,400	23.6	15.6
25～34歳	19,900	6,300	31.8	6,100	4,300	67.4	20.0
35～44歳	24,900	5,600	22.5	5,300	3,400	60.0	23.4
45～54歳	23,100	4,000	17.2	3,600	1,900	47.7	26.2
55～64歳	29,400	11,500	38.9	10,700	2,600	22.8	5.4
65歳以上	53,300	45,100	84.6	27,900	2,100	4.7	0.8

M字型の底である25歳から34歳の女性の無業者の多くは、家事を主にしていますが、そのうちの6割以上の方は、仕事に就きたいと考えています。

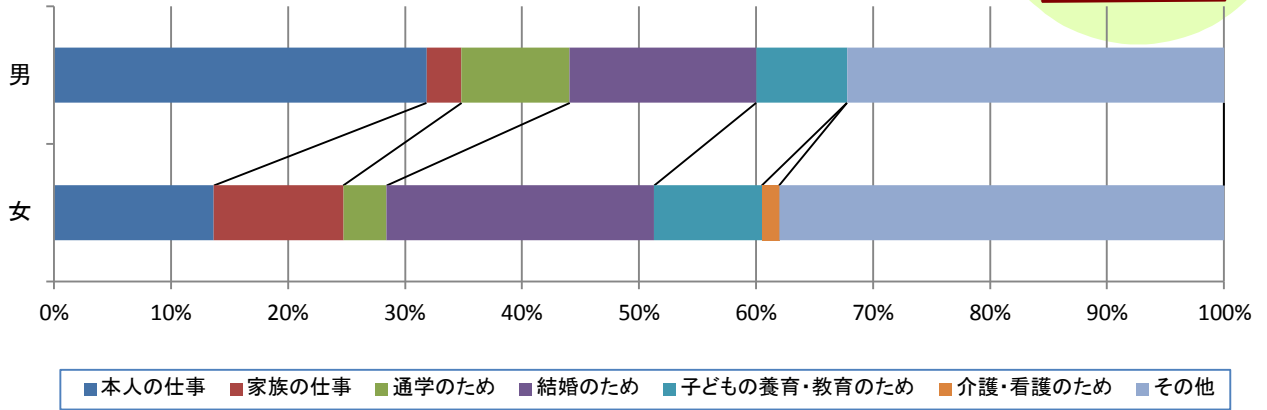
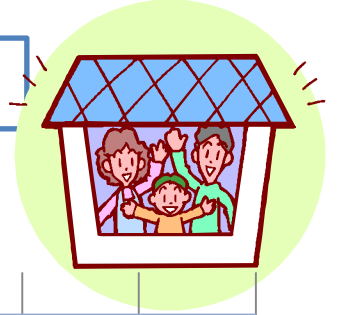
しかし、そのうち2割の人しか、求職活動をしておらず、就業意欲がありながら、就業を控えているということがわかります。

また、25～34歳の就業を希望している女性の世帯構成の内訳をみると、子どもがいる世帯が、9割を超えていることがわかります。

25～34歳の就業希望の女性の世帯構成

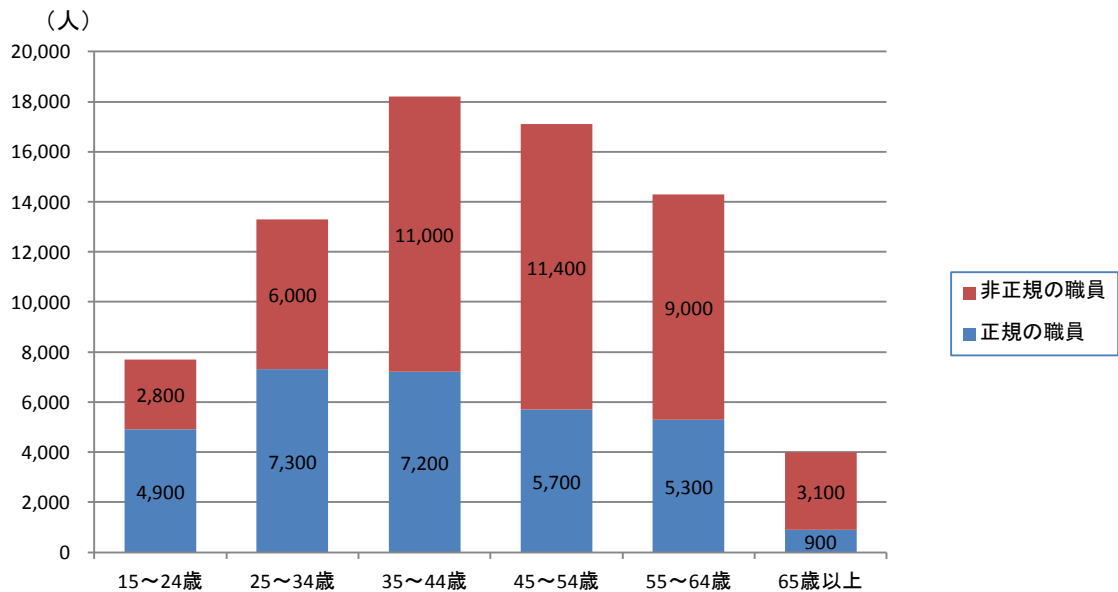


中濃圏域の転居理由別割合



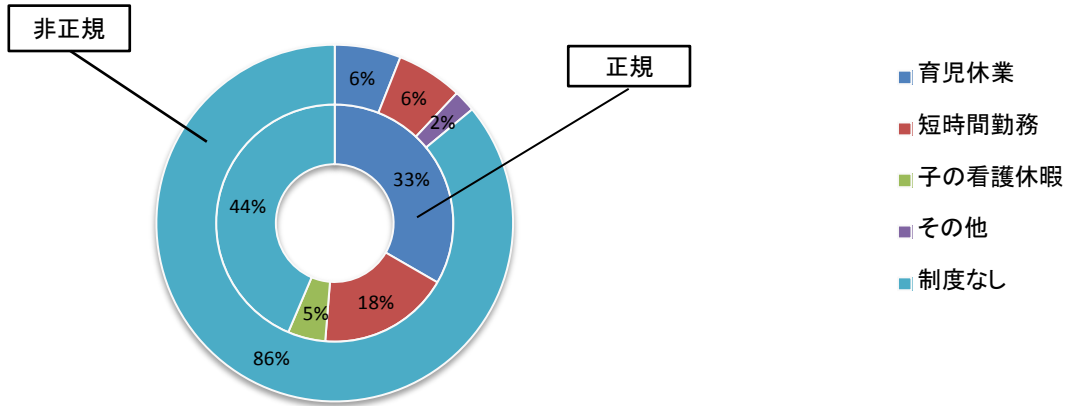
男女別に転居理由を見てみると、男性は「本人の仕事」のために転居した割合が高いですが、女性は「家族の仕事」、「結婚」などの理由が多く、離職理由と同様、男性に比べ家庭環境の変化による転居が多いことがわかります。

中濃圏域の女性の雇用形態



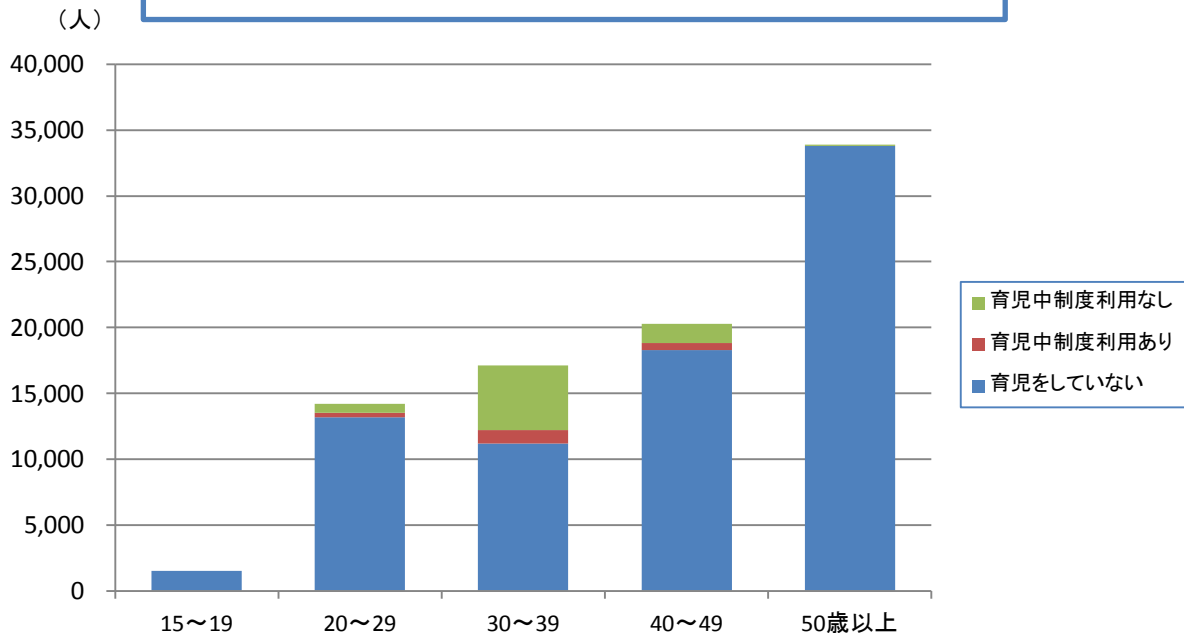
女性の雇用形態を正規・非正規で見ると、35歳からの層を境に、正規、非正規の割合が逆転しています。

中濃圏域の女性の雇用形態別、育児休業等制度の種類別雇用者割合



女性の雇用者の育児休業等制度の種類別雇用者の割合をしてみると、内側の正規職員は半数以上が何らかの制度を利用していますが、外側の非正規職員は8割以上の方が、制度の利用がないことがわかります。

中濃圏域の有業女性の育児制度利用について



仕事をしている女性を年代別に見てみると、どの年代層も育児をしていない人の割合が高いことがわかります。

また、30～39歳の年代で、育児をしながら働いている女性の割合が高くなっています。

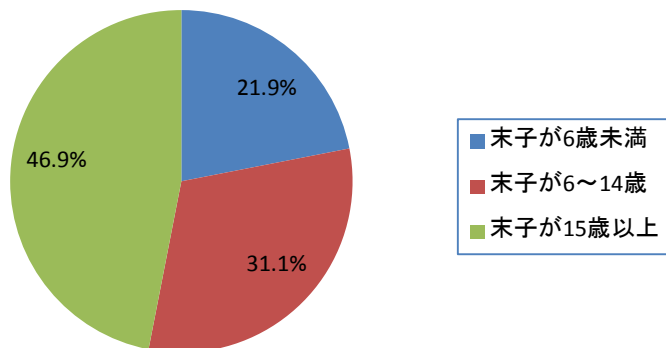
育児休業等制度・・・育児休業、短時間勤務、子の看護休暇などをいいます。

家族類型ごとの妻の有業者数

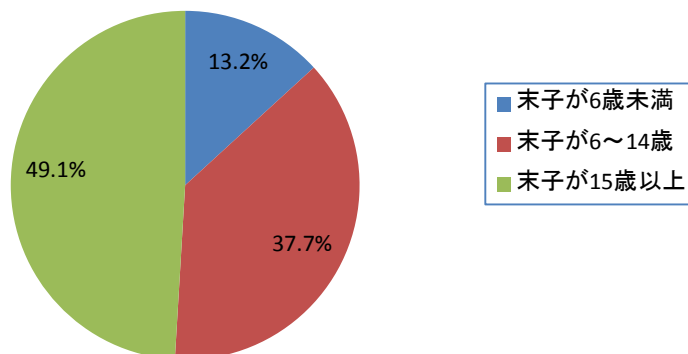
	総数(人)	うち妻が有業者(人)	妻が有業者の世帯の割合(%)
夫婦のみの世帯	31,000	13,700	44.2
夫婦と親から成る世帯	6,100	4,000	65.6
夫婦と子どもから成る世帯	39,800	22,700	57.0
夫婦、子どもと親から成る世帯	13,200	10,500	79.5

世帯の家族類型ごとに妻の有業者数をみてみると、「夫婦、子どもと親から成る世帯」で、有業者の割合が高くなっています。
また下の円グラフを見ると、末子の就学を機会に仕事を始める方が増えていることがわかります。

夫婦と子どもから成る世帯のうち妻が有業者の場合の末子の年齢



夫婦、子供と親から成る世帯のうち妻が有業者の場合の末子の年齢



雇用形態、男女別所得別有業者

所得	正規の職員・従業員(%)		非正規の職員・従業員(%)	
	男	女	男	女
性別				
100万円未満	0.7	3.8	22.3	49.3
100～199	3.1	17.2	35.4	37.8
200～299	20.1	37.9	26.9	9.0
300～399	23.9	19.4	8.0	2.3
400～499	19.1	10.8	3.4	0.7
500～599	10.9	4.8	0.6	—
600～699	9.6	2.5	0.6	—
700～799	6.4	2.2	0.6	—
800～899	2.1	0.3	—	—
900～999	1.6	0.3	1.1	—
1000万円以上	1.6	—	—	—

雇用形態で所得階級別の割合を見ると、「正規の職員・従業員」では男性は300～399万円が最も高く、女性は200～299万円となっています。

「非正規の職員・従業員」では、男性は100～199万円、女性は100万円未満が最も高く、半数近くを占めています。

下の円グラフは世帯の収入を表していますが、こちらも300～399万円が最も高い割合となっています。

世帯の年間収入

